

地図と測量のコンテンツにふれてみよう！

「地理院地図を使ってみよう」編 第4回 ～土地の成り立ちから災害リスクを知ろう～



ケンタ君

博士、最近は大雨による浸水被害が多いよね。
僕たちの通っている学校の周りでも起きるのかなあ？



マップ博士

そんな時には地理院地図じゃ。土地の成り立ちや、その地形で発生する災害リスクを学ぶことができるんじゃないよ。



それって、どういうこと？



地理院地図では、その地形を形態、成り立ち、性質などによって区分した地形分類を見ることができるんじゃないよ。



例えば、かつて河川の流路だった「旧河道」による地形では、河川の氾濫による浸水が長期間になりやすいリスクや、液状化のリスクがあるんじゃないよ。



どのようにその土地ができたかを
知れば、その地形の自然災害リスク
もわかってしまうんだね！



その通りじゃ！詳しくは以下の
ページで説明しているぞ。

- ・広報誌>ことばのミニ辞典～第11回「地形分類」～
- ・地図・空中写真・地理調査>主題図(地理調査)
>ベクトルタイル「地形分類」

旧河道 出典等

土地の成り立ち かつて河川の流路だった場所で、周囲よりもわずかに低い土地。流路の移動によって河川から切り離されて、その後には砂や泥などで埋められていく。

この地形の自然災害リスク 河川の氾濫によって周囲よりも長期間浸水し、水はけが悪い。地盤が軟弱で、地震の際は揺れが大きくなりやすい。液状化のリスクが大きい。

上記は一般的な自然災害リスクであり、個別の場所のリスクを示しているものではありません。



それでは、実際に地理院地図を使って
みよう。
今回は例として、国土地理院周辺の
「自然地形分類」を見てみようかの。

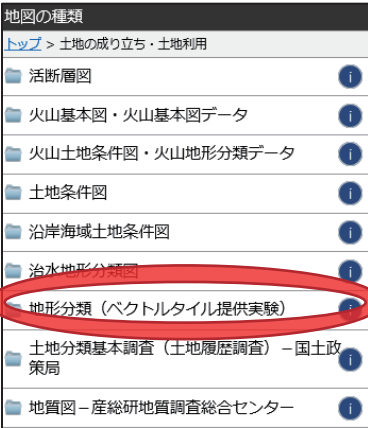


- ① 調べたい場所を検索
- ② 画面左上のアイコン[地図]をクリック





- ③ [土地の成り立ち・土地利用]
 - ④ [地形分類(ベクトルタイル提供実験)]
 - ⑤ [地形分類(自然地形)]
- と選択すると…



カラフルな地図が出てきたよ！
 国土地理院の北東には氾濫平野(薄緑色の地域)があるんだ！



普段は見えない土地の状態が見えてきたじゃろ？
 地域のことを知って防災に生かすことは、本当に大事なことなんじゃ。



「人工地形」を選択すれば、埋立地なども調べることができるんだね！
 さっそく、僕の通っている学校を調べてみるね！



今回の内容は動画でも紹介しているからぜひ見て欲しいのう。

- [地理院地図ヘルプ](#) > [使い方動画一覧](#) > [土地から災害リスクを知る](#)



05 土地から災害リスクを知る



地理院地図を使ってみよう 国土地理院

自然が作り出した地形を理解し、「土地の成り立ち」から自然災害に対するリスクを知る方法をご紹介します。